

## 小学校図画工作科における知性教育の理論的及び実践的研究

Theoretical and Practical Research of Intellectual Education in Elementary School Arts and Crafts Class:

### Introduction

立原慶一

反知性的美術教育として「造形遊び」、知性的美術教育として「主題表現法（主題を造形表現にもたらず手法）」が具体的な研究対象として取り上げられる。「造形遊び」において働くとされる想像力や「体全体の感覚」が、これまで公認されてきた美的能力から大きく逸脱している事態を明示する。それが子どもの精神的倫理的なあり方と遊離してあまつさえ情操の涵養につながらないなど、非教育的であることが論証される。同時に「造形遊び」の登場と、成熟社会や現代美術の強いつながりが社会的文化的観点から究明される。後二者は前者を学校美術教育で必然的な存在へと筋道づけられると思われるが、その理論的な根拠が指摘されることになる。

一方の「造形遊び」の検討では材料の組み合わせや場所の特徴、またそれらの関係をめぐる面白さや意外さなどの外在的な表象をもたらしたり、ポスト・モダン思想を反映した刹那的な生の時間感覚をあおる点に着目する。他方の現代美術の検討では、「ほんとう、よい、美しい」の総合を図る営みが一切排除される点に注目する。それらを踏まえて、両者の親近関係がそれぞれ論じられた。ただし当然のことながら、現代美術は作家の表現意識に裏付けられているのに対して、「造形遊び」は児童による自己意識なき消費的活動である点で根本的に異なる。

「伝え合いたいこと」は平成10年度版学習指導要領高学年「主題表現（表したいことを表す）」領域に増補され、知性的題材の範例的なものとして性格づけられる。本稿ではその教育的意義と、今後における実践的な可能性が究明される。前者については、学校美術教育では「技術と人間的教養による美術」を学ばせるべきであり、その具体化の事例がまさに新設項目「伝え合いたいこと」の題材化であることを明瞭する。後者では、「総合的学習」との有意的な関わりなどが論究される。併せて今日における美術教育界混乱の原因を探り当て、それを反省して普通教育としての美術教育のあるべき姿が提示された。